

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

2

2026 FEB.

第 273 号

学校長からのメッセージ

1 月、寒波の中を富山 YMCA に行きました。

大阪市に拠点を置く我が YMCA 学院高等学校（以下、本校）は、“広域制通信制高校”の認可を受け、多様な学びを必要とする生徒たちのためにサテライト施設、いわゆる連携校（技能教育施設、サポート校）を広く展開しています。現在、サポート校は、東京、名古屋、和歌山にありますが、この 4 月からは北陸でも、富山 YMCA がその役を担います。今回はその準備のための訪問でした。

驚いたのは、私たちが訪れた時、そこは学童の子どもたちでいっぱい。“子どもだらけ”という言葉がぴったりでした。みんなの笑顔があふれる昼食は、本格的なスパゲッティ。富山 YMCA には、家に帰れない子ども、帰りたくない子や親子のための“居場所”もあり宿泊ができる部屋もありました。また、古くから小学生から高校生までのフリースクールも行ってきました。富山県は校則などが非常に厳しいそうで、それもあるのか不登校の生徒たちが急増しています。フリースクールでは高校卒業資格は得られませんが、この度、本校のサポート校になる事で、在籍する生徒たちも本校の高校卒業資格を得る選択が出来るようになります。

以下は、本校の連携校を卒業する生徒に「自分が変わったところは？」と聞いた返事です。◆A さん：入学するまでは『みんな一緒』が求められて来たので、入学当時は周りがものすごく気になっていたけど、ここでは『自分のペースで進んでいい』と言われ、自分と人を比べることが減りました。◆B さん：自分の思ったことは言葉にするようになりました。すると、他の人の言いたかったこともスッと理解できるようになりました。◆C さん：今、子ども相手のアルバイトをしています。うまくいかない時に先生たちの私たちへの接し方を思い起こしてやってみたら、案外通じました。いまさらですが、子どものためを思う先生方の関わり方が、すごくありがたかったなって実感しています。

この 4 月、富山 YMCA は地域からますます必要とされる存在になります。今、苦しんでいる子どもたちに、この“居場所”を見つけてほしい、とつくづく思いながらの帰途でした。

（校長 鍛治田 千文）

「見よ、わたしは新しいことをする。今や、それは起こっている。あなたがたは、もうそれを見ないのか」

（イザヤ書 43 章 19 節）

《お知らせ》 自分の知らない自分や新しい自分に出会うためには、何より体験することが重要だと思います。2 月は、カナダで始まった「いじめ反対運動：ピンクシャツデー」の取り組みがいくつかあります。今までと違った価値観、知らなかった人との出会いがあるかもしれません。ぜひ参加してください。





今月の聖句

「神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」

(フィリピの信徒への手紙 3 章 14 節)

私たちは日時の様々な場面で目標を設定します。今日のうちにこの仕事や宿題を終わらせよう、毎朝筋トレをしよう、推しのライブのチケットを買うまではお菓子を買うのを我慢しよう、等。そして、それぞれの目標を達成できる時もあれば、途中で挫折してしまうこともあります。できれば一つ一つの目標を達成していきたいのですが、思うようにはいきません。挫折が続くと自己肯定感が下がってしまうこともあります。

けれども、一番大切なのは、目標を達成したかどうかではないのです。この聖句では「目標を目指してひたすら走ることです。」とあります。一つ一つの目標に全力に取り組むことで、たとえ挫折したとしても神様がその努力に報いてくださいますし、しっかりとフォローしてくださるのです。

今ここに生かされている命を、それぞれの全力で生きていく日々でありたいと思います。



「今月の聖句」 自己紹介

福島 義也 (ふくしま よしや)

河内長野みぎわ教会の牧師で、YMCA 学院高校の非常勤講師をしている福島義也です。

小さな虫から大きな動物まで、すべての生き物が好きです。車やバイク、音楽、スポーツも好きです。身近な所に散りばめられている神様の恵みを伝えていきたいと思っています。

